



関 中 学 校 だ よ り

学校評価特別号 令和 8 年 2 月 4 日

ホームページアドレス <http://www.seki-j.nerima-kyo.ed.jp>

令和 7 年度 より良い学校づくりアンケート 保護者・生徒・教職員の平均値の比較

実施日 令和 7 年 11～12 月

対象者 保護者 (315 人 回答率 70.1%) 生徒 (418 人 回答率 89.5%) 教職員 (22 人)

点数振分 そう思う 4 点、ややそう思う 3 点、あまりそう思わない 2 点、そう思わない 1 点

評価項目		平均値		
		保護者	生徒	教職員
設問 1	関中に通ってよかった。	3.4	3.5	
設問 3	関中の教育方針や重点目標を知っている。	2.7	2.9	
	関中は、教育方針や重点目標を家庭に伝えている。			3.2
設問 4	生徒は、誰にでも挨拶ができるように心掛けることができている。	3.2	3.5	
	教職員は、自らが見本となって生徒に挨拶の大切さを伝えている。			3.3
設問 5	生徒は、適切な言葉を使うよう意識することができている。	3.1	3.2	
	教職員は、自らが見本となって生徒に言葉を大切に使うよう指導している。			3.2
設問 6	生徒は、公正な判断や行動をしようと心掛けることができている。	3.3	3.2	
	教職員は、自らが見本となって、公正な態度を生徒に示している。			3.5
設問 7	生徒は、心身ともに健康的な生活を送ることができている。	3.2	3.2	
	教職員は、心と身体の健康の大切さを生徒に伝えている。			3.4
設問 8	生徒は、安心して学校生活を送ることができている。	3.3	3.4	
	関中は、個々の生徒が安心して過ごすことができるよう、生徒の居場所を提供している。			3.3
設問 9	教員は、学校で起こった諸問題について迅速かつ適切に対応している。	3.0	3.4	3.6
設問 10	生徒は、中学校に入って明るく前向きになることができている。	2.9	3.2	3.2
設問 11	あなたは、一人一人の違いを知り、いじめや仲間はずれをしない。		3.7	
	関中は、いじめ防止について適切な指導を行っている。	2.9		3.4
設問 12	教員は、学校の様子や学習状況などを保護者に伝え、子どもの学力等を適切に評価している。	3.1	3.5	3.6
設問 13	あなたは、先生方、カウンセラー、心の相談員等にいつでも気軽に話しかけ相談できる。		3.1	
	関中は、生徒や保護者がいつでも相談できるようになっている。	2.9		3.4
設問 14	関中は、学習方法や評価の出し方について、いつでも質問し説明してもらえる。	2.8	3.4	
	関中は、学習方法や評価の出し方について、いつでも説明ができる。			3.6
設問 15	関中は、授業でタブレットなどの ICT 機器を活用している。	3.0	3.5	3.0
設問 16	教員は、授業を分かりやすく工夫し教えている。		3.5	3.5
	生徒は、授業の内容が良く分かっているように見受けられる。	2.6		
設問 17	関中は、関町北小、石神井台小とともに小中一貫教育を進めている。	2.6	2.6	3.0
設問 18	関中は、ホームページや授業公開など学校の様子を周知するために努力している。	2.9	3.1	3.2
設問 19	保護者は、授業公開・学校行事・保護者会等には、積極的に参加しようと考えている。	3.2		3.4
	家庭では、授業公開・学校行事・保護者会等に積極的に参加しようと話が出ている。		2.9	
設問 20	関中学校の教育活動に、保護者として支援・協力をしている。	2.7		
	関中学校の話を保護者と良くしている。		3.1	
	保護者の皆様より、関中学校の教育活動に支援・協力を頂いている。			3.2

11月から12月にかけて、生徒・保護者・教職員を対象に「より良い学校づくりアンケート」を実施しました。ご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。アンケート結果から、本校の教育活動における成果と、今後さらに改善していくべき課題が明らかになりましたので、お伝えいたします。

1 アンケート横断分析要約

(1) 学校の成果（強み）

①学校全体への満足度は高水準

⇒ 生徒・保護者ともに「関中学校に通って（通わせて）よかった」は肯定率生徒は93.7%、保護者は90.7%

②授業の分かりやすさ・教員の授業力が高評価

⇒ 生徒の教科別評価はほぼ全教科で肯定率96.6%

③安心して学校生活を送れているという実感

⇒ 生活面・人間関係・いじめ防止意識は安定

(2) 学校の課題（数値的に明確）

①教育方針・教育目標の認知不足

⇒ 学校として何を目指しているのかが、十分に共有されていない。

②小中一貫教育の理解不足（重点課題）

⇒ 制度として存在しているが、実感・理解が伴っていない。

③相談体制への不安

⇒ 相談できる体制はあるが、心理的ハードルが高い。数値・自由記述ともに一致している課題。

④学習評価・補習・学力の見え方に対する保護者の不安

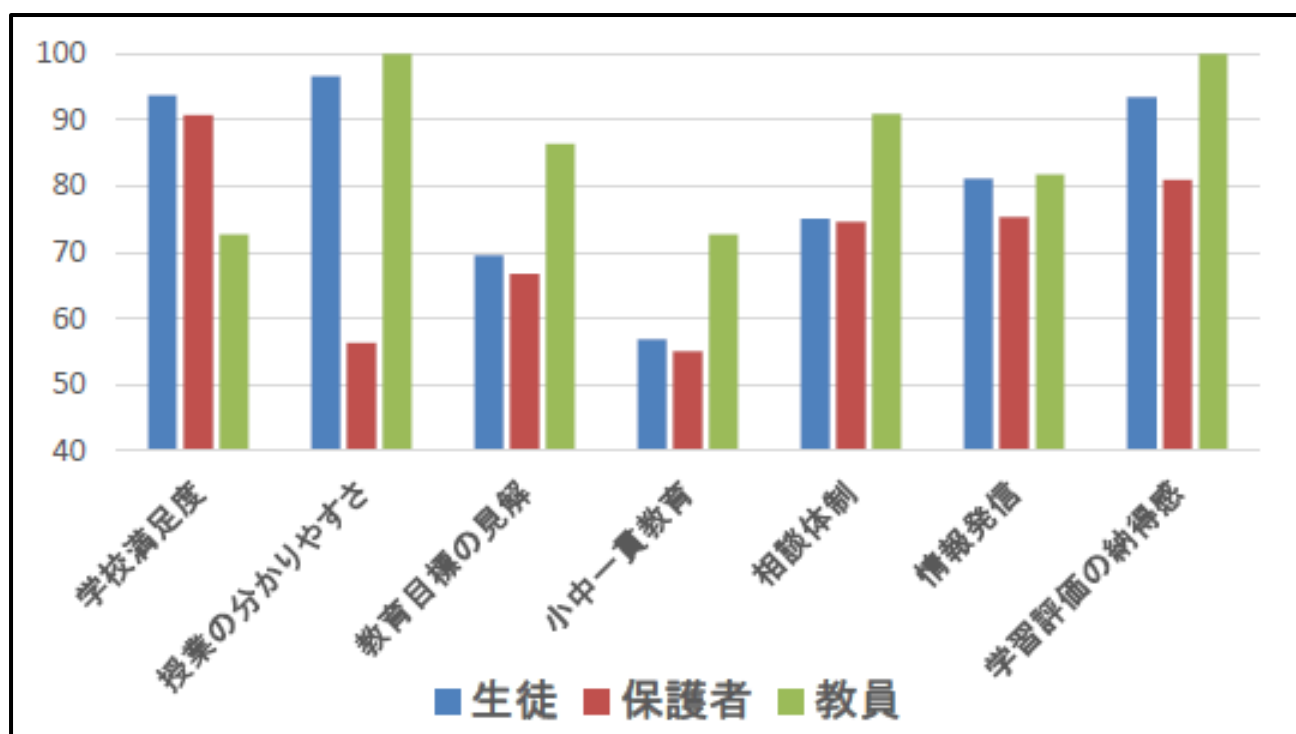
⇒ 生徒評価は高いが、保護者の納得感が低い。三者比較で最もギャップが大きい項目

⑤学校の取組が十分に伝わっていない（HP・授業公開・取組の見せ方）

⇒ 学校内部では見えているが、保護者には十分伝わっていない。

★ 多くが「取組不足」ではなく「説明・可視化不足」型の課題

2 三者比較表（評価のズレ分析）



3 成果・課題・課題に対する改善点

(1) 成果

今年度の学校評価アンケートの結果から、本校の教育活動について、多くの成果が確認できました。

まず、生徒・保護者の多くが「関中学校に通って（通わせて）よかった」と感じており、学校生活全体に対する満足度や安心感が高い水準で保たれていることが分かりました。日常の学校運営や教育活動が、一定の信頼を得ていることの表れであると受けとめています。

また、授業に関しては、生徒から「分かりやすい」「工夫されている」といった肯定的な回答が多く寄せられました。教員による授業改善や ICT 機器を活用した学習の取組が、生徒の学びにつながっていることがうかがえます。教科による大きな差もなく、学校全体として授業の質が安定している点は、本校の大きな成果です。

さらに、生活面では「安心して学校生活を送っている」「挨拶や人との関わりを大切にしている」といった項目で高い評価が見られました。学級経営や生活指導が概ね落ち着いて行われ、生徒同士の人間関係や学校の雰囲気が安定していることが確認できました。

(2) 課題

一方で、アンケート結果からは、今後改善を図るべき課題も明らかになりました。

その一つが、学校の教育方針や教育目標、小中一貫教育の取組について、生徒・保護者の皆様に十分に伝わっていない点です。学校として大切にしている考え方や取組が、日常の教育活動の中で実感しづらく、分かりにくいものになっている可能性があることが分かりました。

また、学習評価や補習、学力の捉え方については、特に保護者の皆様から「分かりにくい」「不安がある」といった声が見られました。学校では学習状況を踏まえた指導や支援を行っていますが、その考え方や方法について、十分な説明が行き届いていなかった点が、課題として挙げられます。

さらに、相談体制についても、相談できる環境は整っているものの、「気軽に相談しにくい」と感じている生徒や保護者が一定数いることが分かりました。相談の窓口や方法が十分に共有されておらず、心理的なハードルが残っている点も改善が必要です。

(3) 課題に対する改善点

これらの課題を踏まえ、今後は次のような点に重点的に取り組んでまいります。

まず、教育方針や教育目標、小中一貫教育の取組については、学校だよりやホームページ、行事や説明の機会を通して、具体的な取組内容やねらいを分かりやすく発信していきます。学校が何を大切にし、どのような力を育てようとしているのかを、繰り返し丁寧に伝えていくことを重視します。

学習面については、学習評価や成績に対する不安や疑問の声を真摯に受けとめ、相談体制や説明の在り方を見直していきます。

来年度は、成績相談日という特定の日を設ける形を改め、成績や学習評価に関する相談については、年間を通して随時受け付ける体制とします。保護者の皆様が気になった時に、必要に応じて相談していただけるよう、柔軟な対応を行ってまいります。

また、学習評価や評定の考え方について、より多くの保護者の皆様に理解を深めていただけるよう、全校を対象とした「評価・評定説明会」を5月1日（金）に実施する予定です。評価の観点や評定の仕組み、学校と

して大切にしている考え方を丁寧に説明し、学校と家庭が共通理解のもとで生徒の学びを支えられるよう努めてまいります。

さらに、相談体制については、相談窓口や相談方法を改めて整理し、生徒や保護者が安心して相談できる環境づくりを進めていきます。

4 自由意見に関して

(1) 部活動に関するご意見への学校としての考え

部活動に関しては、活動内容や指導体制、外部指導員との関わり方について、さまざまなご意見をいただきました。部活動が生徒にとって学校生活の大きな支えや成長の場となっている一方で、不安や行き違いを感じさせてしまったケースがあったことを、学校として重く受け止めています。

本校では、部活動は教育活動の一環であり、生徒の安全と心身の成長を最優先に考えるべきものと捉えています。しかしながら、教職員の異動等により顧問となる教員が不在となる場合や、指導体制の継続が難しくなるケースが生じているのも現状です。現在の教員配置は生徒数を基準として決定されており、その中で部活動の顧問を確保することには一定の制約があります。

こうした状況を踏まえ、本校としては、今ある部活動を可能な限り安定して維持していくことを第一に考えています。そのため、複数顧問制の導入や、顧問間・外部指導員との連携を強化するなど、指導体制の工夫に努めてまいります。一方で、新たな部活動の増設については、現時点では難しい状況であることについて、ご理解をいただければ幸いです。

(2) 教職員の対応・言動に関するご意見への学校としての考え

教職員の対応や言動については、温かい評価とともに、改善を求めるご意見も寄せられました。本校では、東京都教育委員会が示す「人権教育プログラム」に基づき、日頃の指導や言動の在り方について改めて校内で確認を行い、人権尊重を第一にした指導が徹底されるよう、校内研修等を通して改善を図ってまいります。また、管理職を中心とした相談・共有体制の充実に努めていきます。

(3) 服装に関する生活指導へのご意見への学校としての考え

来年度より新1年生の標準服が改正されることを受け、標準服の着方や指導の考え方について、校内で見直しを行いました。標準服をきちんと着こなすことは、身だしなみを整える習慣を身に付け、将来、時と場に応じたふさわしい服装を判断できる力を育てることにつながると考えています。今後は、この指導の趣旨を生徒にも分かりやすく伝え、納得感のある生活指導を進めてまいります。

本校では、今回のアンケート結果を真摯に受け止め、教育活動の質の向上とともに、その取組や考え方を分かりやすく伝えることを大切にしながら、より信頼される学校づくりを進めていきます。